

# 島根県離島振興計画

## ——人口社会増の隠岐を目指して

島根県隠岐支庁県民局地域振興課

### 隠岐の概況

日本海に浮かぶ島根県隠岐諸島は、島根半島から北へ約六〇キロメートルに位置し、四つの有人島と一八〇あまりの無人島からなります。有人島のうち、本土に近い方の西ノ島（西ノ島町）、中ノ島（海士町）、知夫里島（知夫村）の三島を合わせて島前とうぜん、遠い方の最も大きな島を島後（隠岐の島町）と呼びます。

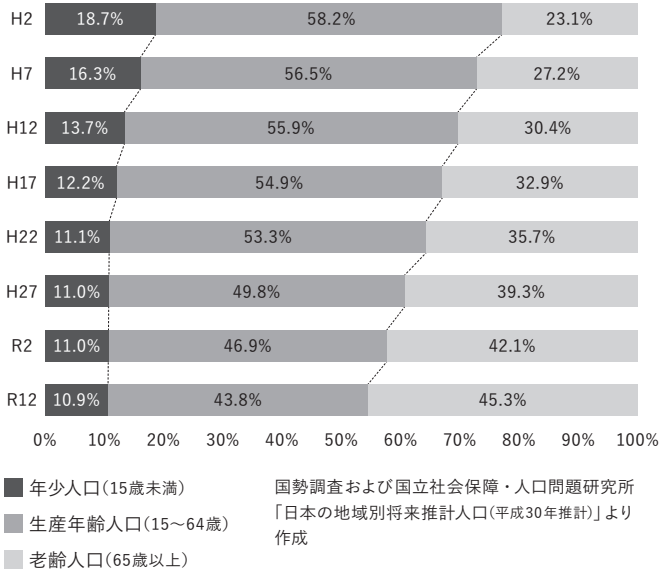
隠岐への移動は、船では七類港（島根県松江市）と境港（鳥取県境港市）からフェリー（七類港～西郷港（島後）まで約二時間三分）と高速船（同約一時間）で、飛行機では島後に隠岐世界ジオパーク空港があり、伊丹空港と出雲空港から直行便が運航しています。島前・島後を合わせた有人四島の面積は約三四

六平方キロメートル、人口は約一万九千人（令和五年四月現在）です。

隠岐は、国賀海岸や白島などに代表される雄大で美しい自然景観のほかに、独自の生態系、伝統文化、食文化があります。約二万年前に離島となった隠岐には、大地の歴史と地質が育んだ独自の生態系があり、北海道で見られる植物と沖縄で見られる植物が同じ場所で生育していたり、地球上で隠岐でのみ見ることが出来る固有種も存在しています。

太古からの生態系を受け継ぎながら、天皇や貴人が流された遠流の島、北前船が行き交う海運の拠点となるなど、多様な文化が形成されました。後鳥羽上皇に由来がある牛突きや、北前船の交易に多大な影響を受けた隠岐民謡、各島の個性的

隠岐4町村の年齢構成の推移(予測)



な祭りなど、住民がその伝統を守り続けています。食文化では、隠岐はさまざまな魚介類が混在する全国でも有数の好漁場で、県内の漁獲高の七割を占めています。また、平安時代までは「御食國」として、アワビやイカ、ワカメといった隠岐の海産物が宮中の儀式に不可欠とされていました。

古くから「隠岐の国」と呼ばれ、いまに伝わる数々の史跡や伝統行事を有する隠岐は、訪れる人を悠久の世界へと誘います。

一方、隠岐地域の持続的発展を考える上で、直面している課題もあります。日本全体で人口減少、少子高齢化が進む中、隠岐の人口もこの一〇年間で約二五〇〇人減少し、推計では二〇三〇(令和一二)年に高齢人口(六五歳以上)が生産年齢人口(一五歳~六四歳)を上回ることが予想されています(上図)。これまでも島根県および隠岐四町村は人口減少対策に取り組んできましたが、出生率の大幅な向上を短期間で達成することは容易ではなく、生産年齢人口の減少による地域の担い手不足が大きな課題となっています。

### 島根県離島振興計画の概要

離島振興計画は、離島振興法に基づき、国が定める離島振興基本方針のもとに、都道府県が定める計画です。国の基本方針のほかにも、島根県の最上位計画である「島根創生計画」、特定有人国境離島地域の地域社会の維持に関する計画など、関連する各種計画との整合を図りながら、一体的に施策を進められるよう検討してきました。

また、島根県では、離島振興計画を作成するうえで地元の

意見をできる限り反映するため、町村との協議のほか、隠岐の振興を図るために民間・関係団体・行政などで構成する組織「離島総合振興会議」を設置し、令和三年度から計画の具体的な内容について協議・検討してきました。

### ■ 基本理念および基本目標

昭和二八年の離島振興法の制定以来、隠岐地域では、島根県、町村および関係団体が計画などに基づきさまざまな離島振興事業を実施し、下水道、保育所、公営住宅の整備といった生活環境分野や中核病院である隠岐病院の全面改築といった医療分野など、基礎的な生活条件の整備・改善などに一定の成果をあげてきました。

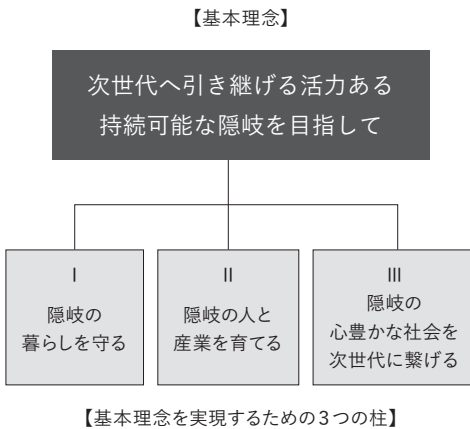
前計画の期間（平成二五年度～令和四年度）には、来居港フェリーターミナル（知夫村）の整備をはじめとする港湾、漁港および道路などの社会インフラの整備がさらに進みました。また、隠岐の歴史をあらわす奇岩や断崖などの景観、離島ならではの生態系、古くから培われてきた独自の文化などが高く評価されたことにより、平成二五年九月にユネスコ世界ジオパークに認定され、隠岐固有の魅力を改めて国内外にアピールする契機となりました。さらに、平成二九年に施行された有人国境離島法により、航路・航空路運賃の低廉化、農水産物の移出・原材料などの移入に係る輸送コスト支援が可能に

なり、人の往来や流通の活発化につながりました。

しかし、離島ならではの厳しい自然的・社会的条件の下、人口減少や少子高齢化の進行にともなう地域運営の担い手不足、産業基盤、生活環境などの整備・改善に向けての取り組みは、いまだ途上にあります。また、社会情勢の変化により、DXやGX（グリーン・トランスフォーメーション）、新型コロナウイルスへの対応など取り組むべき新たな課題が生じています。

こうした状況を踏まえ、隠岐地域に人々が安心して住み続け、隠岐の自然、歴史・文化と豊かな暮らしを将来につなぐ

島根県離島振興計画の理念図



ため、この計画の基本理念を「次世代へ引き継げる活力ある持続可能な隠岐を目指して」とし、県および関係町村などが一体となって、「Ⅰ隠岐の暮らしを守る」「Ⅱ隠岐の人と産業を育てる」「Ⅲ隠岐の心豊かな社会を次世代に繋げる」の三つの柱ごとに各種施策を総合的かつ計画的に展開します。

基本理念を実現するためには、産業、医療、福祉、教育などさまざまな分野での人材の確保・育成が重要であり、県、町村および関係団体が連携して、地域産業の活性化やＵＩターン施策、関係人口の拡大などに、より一層取り組み、人口の社会減を縮小・解消していく必要があります。計画の基本目標を「人口の社会増」とし、段階的に社会移動による人口減少を解消することにより、二〇三二年度に人口の社会増「九人」を目指します。

### ■分野別施策

次に基本理念および基本目標を踏まえて、施策の柱について説明します。分野別に三つの柱を定め、隠岐地域を支える人材を確保し、改正離島振興法に新たに加えられた「島外の人材（いわゆる関係人口）」や「新たな技術・制度」を活用しながら、持続的な地域づくりを推進することとしています。

一つめの柱「隠岐の暮らしを守る」について、離島航路・航空路は、住民の暮らしや仕事を支えるとともに、地域振興

や観光振興においても大きな役割を果たします。モノやヒトの流れを拡大し、産業を活性化していくため、運賃低廉化、輸送コストの低廉化を継続するとともに、その拡大を働きかけしていく必要があります。また、交通手段の確保、そして社会基盤整備を継続して進めるとともに、近年増加する空き家の利活用を促進することが重要です。高度情報通信ネットワークの活用は、離島が抱える地理的ハンディキャップを解消する上でも、特に重要な課題です。都市部との情報格差を解消するためネットワークの整備・利活用を推進します。さらに、隠岐は森林資源や水資源が豊富であり、風の状態にも恵まれた地域であるため、地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入を促進します。

医療の充実・確保は、住民が安心して暮らしていくための重要な要素です。定住の促進のためにも必要不可欠であり、医療機関相互の機能分担や連携を進めるとともに、医療従事者の養成・確保、遠隔医療体制の整備など、良質な医療機能の確保を図ります。隠岐の後期高齢者数は、今後増加して、二〇三〇年にピークを迎えると予想されます。そうした状況の中で、持続的な介護サービス基盤の維持が必要であり、介護人材の確保や介護ロボットの導入などを通じて、介護サービスの質の維持向上を支援します。

二つ目の柱「隠岐の人と産業を育てる」について、隠岐の

基幹産業である農林水産業の振興を掲げています。地域特性を活かした農業の推進、循環型林業の定着、沿岸漁業の振興を図ります。観光振興については、令和四年度に（一社）隠岐ジオパーク推進機構が設立され、観光地域づくり法人（DMO）として魅力ある観光地域づくりを牽引しています。隠岐ユネスコ世界ジオパークの魅力を生かした商品の創出、受入体制の強化、情報発信など圏域全体で取り組んでいきます。また、地域資源を生かした産業振興、中小企業などの経営革新、事業承継などの促進、新たなビジネス創出や事業拡大などを支援していきます。

隠岐地域の事業所では、人材の確保が重要な課題です。隠岐では、特定地域づくり事業協同組合がすべての町村において設立されています。多様な働き方を提供することで、安定的な雇用環境を整備し、地元産業の担い手の確保を図ります。人口の社会増を実現するため、Uターンを促進する必要があります。的確な情報提供、定着支援などに取り組むとともに、多様な働き方としてのリモートオフィス、ワーケーションなどの体験機会の提供などに取り組みます。

関係人口の拡大については、今回の法改正において「離島と継続的な関係を有する島外の人材も活用」することが、新たに盛り込まれました。地域づくりの担い手が不足している中、隠岐との関わりある人材を増やす必要があります。隠岐



2023年5月にオープンした海士町のグランピング施設「TADAYOI(ただよい)」。

では、地元学校の「離島留学」、島前三町村が実施する「大人の島留学（短期の就業型体験移住制度）」などの取り組みにより、課題解決に貢献する人材が集まり始めています。都市部での関係人口の掘り起こしなどに取り組み、地域活性化や将来的な移住の促進を図ります。

三つ目の柱「隠岐の心豊かな社会を次世代に繋げる」について、学校教育の充実では、子どもたちが地域に愛着と誇りを持ち、確かな学力と豊かな心を育むことができる環境整備が必要です。教育の充実が将来の隠岐を担う人材の確保に繋がっていくと考え、遠隔教育を含めたICTの活用により教育の質の向上を図ります。さらに、多様な価値観との出会いや、視野の広がり、隠岐の魅力の再発見など教育効果の高い「しまね留学」を推進するため、県と町村が連携して情報発信や、受け入れ環境の整備に取り組んでいきます。

自然環境の保全と活用については、身近な自然環境を保全するとともに、隠岐固有の歴史・文化の魅力を活用・継承することで、人々の交流を促進し心豊かな地域をつくります。

## ■ KPIおよび目標値

今回の計画から、重要業績評価指標（KPI）を設けています。施策ごとに合計五七項目を設定し、計画の期間の前半（令和五年度から九年度までの五年間）における具体的な数値目標を

決めました。このKPIにより施策の効果を検証し、改善を行います。

## おわりに

二〇二〇年一月に新型コロナウイルスの感染が国内で初めて確認された後、国内外での感染拡大により、外出自粛、在宅勤務・学習を経験するなど、さまざまな社会経済活動が制約され、多くの人々がこれまでとは違った生活を営むことを強いられました。離島という地理的特性により、都市部に比べ医療体制が脆弱な隠岐では、住民、医療機関、行政などが連携して感染拡大防止に努め、この難局を乗り越えることができました。

一方、コロナ禍により、当たり前だと思われてきた生活や常識は一変し、新しい生活様式や従来にないビジネス、新しい価値観が現れました。その一例がリモートワークなど、働き方の多様化です。

隠岐では、ICTなどを上手く活用することで新しいライフスタイルに適応し、引き続き人と人とのつながりを大切にしながら、住民・地域・行政が一体となって「次世代へ引き継げる活力ある持続可能な隠岐」を目指していきます。 ■